

第1回沙流川下流環境再生技術検討部会

(1) 沙流川水系河川整備計画[変更]について

河川整備計画変更の経緯と今後の進め方

平成11年12月

）

平成14年7月

平成15年8月

）

平成17年11月

沙流川水系河川整備基本方針策定

）

沙流川水系河川整備計画策定

台風10号豪雨災害発生

整備計画目標流量(4,300m³/秒)を上回る約6,100m³/秒の洪水ピーク流量が発生
(流量は洪水調節施設がない場合の流量)

沙流川水系河川整備基本方針の変更

関係住民からの意見聴取
(ホームページによる意見
募集説明会開催等)

意見

沙流川水系河川整備計画
【変更】(原案)

意見

学識経験者から意見聴取
(流域委員会の開催)

知事意見
聴取

意見

沙流川水系河川整備計画【変更】案

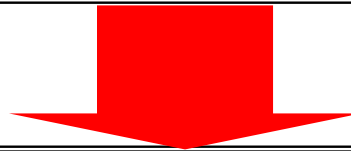
沙流川水系河川整備計画の変更

契機

河川整備計画の目標流量(4,300m³/秒)を上回る6,100m³/秒の洪水ピーク流量が発生



ほぼ全川で計画高水位を超えており、堤防からの漏水も発生するなど、甚大な被害が発生してもおかしくない状況

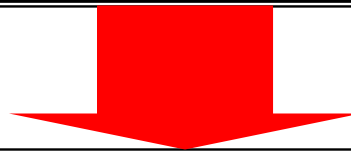


対応

現行の河川整備計画では、平成15年台風10号洪水に対応することができない。



目標流量を4,300m³/秒から6,100m³/秒に変更する。(スライド4)



具体策

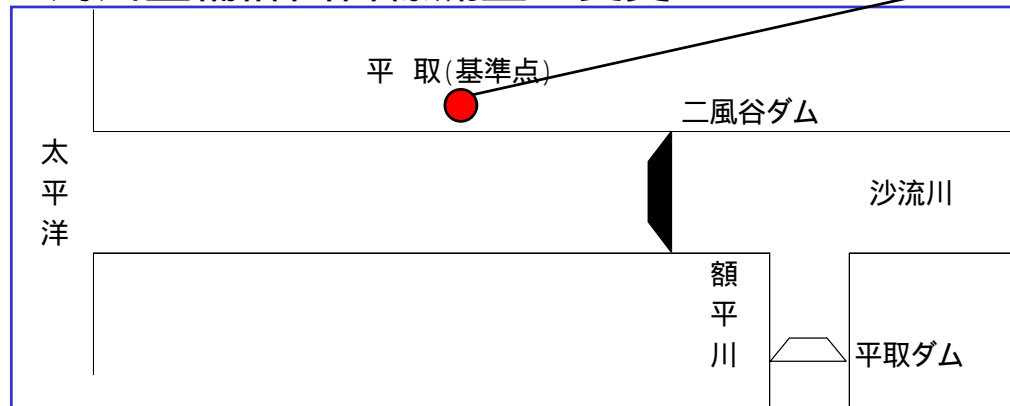
現行の河川整備計画の基本的な考え方を踏襲する。(二風谷ダムと平取ダムにより最大限洪水調節し、それでも不足する洪水流量を河道で対応する。)



両ダムの洪水調節効果を最大限活用する。

その上で不足分を河道掘削の区間、断面を拡大で対応する。(スライド4)

河川整備計画目標流量の変更



平取基準地点 (m³/秒)

	現行河川整備計画	変更案
目標流量	4,300	<u>6,100</u>
河道への配分流量 (洪水調節量)	3,200 (1,100)	4,500 (1,600)

治水の考え方

- 目標流量を平成15年台風10号洪水に鑑み変更
4,300 m³/秒 6,100 m³/秒
- ダムの洪水調節機能を有効活用
1,100 m³/秒 1,600 m³/秒 (平取地点洪水調節量)
利水等容量を洪水調節容量に振替て、洪水調節容量を確保
- その上で不足分を河道掘削で対応
3,200 m³/秒 4,500 m³/秒

目標流量の流下断面確保 (スライド6)

- ・河口から二風谷ダムまでの約21kmにおいて4,500m³/秒を上回る流下断面を確保する必要がある。

堤防の安全性 (スライド6)

- ・過去の河岸被災履歴より算出した堤防防護ライン(堤防法尻より40m)を新たに割り込まない。

維持管理の容易性 (スライド6)

- ・出水時などで土砂の局所的な堆積、洗掘が発生しない断面形状が望まれる。

コストパフォーマンスの優位性

- ・上記 ~ を踏まえた中で、イニシャル・ランニングともにコスト面で優位であることが望まれる。

4,500 m³/秒を確保するには、二風谷ダムより下流のほぼ全川において、約250万m³の河道掘削を実施

洪水時には河岸侵食・堤防侵食など発生する可能性がある
河岸侵食が発生しても堤防まで到達しない距離を確保

出水などで土砂の局部的な堆積、洗掘が発生しない断面形状へ

